

(仮称) 新三宮図書館整備検討会のまとめ

1. 新三宮図書館の立地と利用者層

立地特性を活かして、多世代の人たちが利用できる場所に

(1) 立地環境特性

- ・神戸の入り口・玄関口
- ・神戸の中心地で利便性が良い
- ・働く場所、商業施設、文化施設がある
- ・市民、来訪者に限らず、人が集まる場

(2) 都心に集まる多様な利用者層

- ・勤労者（平日に予約本の受取などで利用）
- ・学生・若者（座席の利用、情報を求めて来館）
- ・家族連れ（休日に買物のついでに利用）
- ・定住外国人（多言語資料の提供で新たな利用）
- ・旅行者（バスなどで神戸へ、あるいは神戸からの旅行者）

2. 新三宮図書館整備に必要な視点

アクセシビリティ、ダイバーシティ、災害対応、チャレンジング、つながり、バスターミナル等との連携

(1) アクセシビリティ（親しみやすさ）

- ・初めての人にも外国人にも、近づきやすい、近寄りやすい図書館
- ・分かりやすいサインやロゴマークで親しみやすさ

(2) 資料・情報への入り口

- ・図書館利用の契機
- ・多様な利用者へ図書館サービスの案内
- ・深いテーマや専門的な資料に関しては他の図書館、他機関の案内又は資料の取り寄せ
- ・市内のマイクロ出版の紹介

(3) 多様性、交流スペース

- ・多言語、多文化サービスの案内（入り口の多言語表記等）
- ・多様な言語の絵本を準備
- ・大人の日本語学習や生活支援となる資料を準備
- ・多様な利用者の交流の場、集い、発信するスペース
- ・災害時の情報提供にも利用可能なミニラジオ局の設置

(4) 付加価値、多様な閲覧席

- ・来館を促す付加価値（サービスというより空間）
- ・高級な椅子、居心地の良さで非日常な空間
- ・静かな個人利用席から多少賑やかな席、持込 PC や Wi-Fi 環境など、多様なニーズに対応した閲覧

席

(5) おはなしの部屋、イベントスペース

- ・独立したおはなしの部屋が必要や親子で気兼ねなく読み聞かせができるスペースが必要
- ・自前で小規模な集会（イベント）を開催できるスペースの確保

(6) チャレンジング

- ・新たなサービスに挑戦する創造的な図書館。サービスの継続、中止も柔軟に
- ・施設面でも建物の可変性を確保

(7) 屋外空間

- ・有効な多目的スペースとして活用の可能性
- ・資料管理、安全確保にも留意

(8) つながり

- ・さまざまな施設とつながる情報ステーション
- ・入り口的な役割を果たして他の図書館間に引き継ぐ
- ・他の文化施設、類縁機関の紹介
- ・「まちライブラリー」や古書店、学校図書館との関り

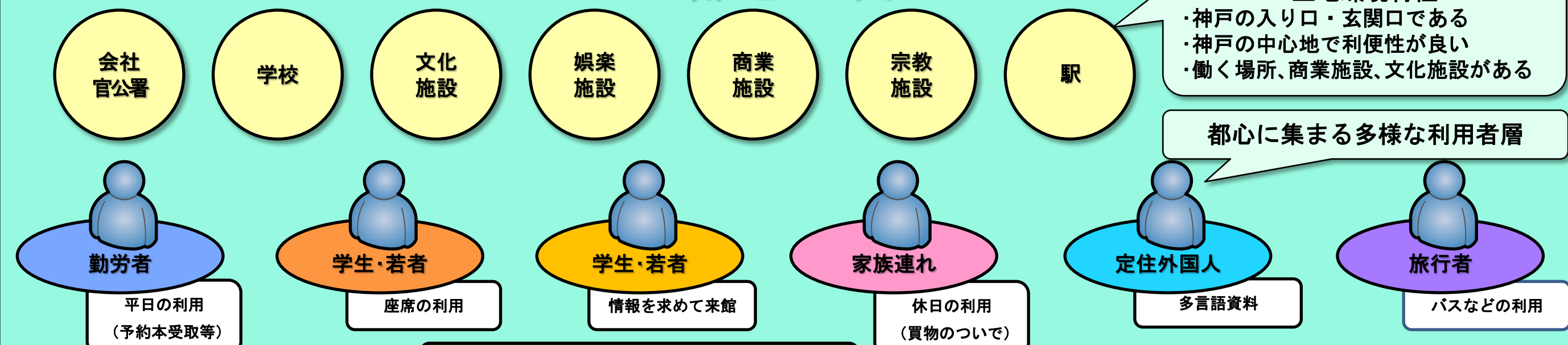
(9) 文化ホール、バスターミナル等との連携

- ・できることから柔軟に
- ・ホールと図書館のお互いの催し物案内、公演記録のアーカイブ
- ・ホールとの動線の分離
- ・神戸観光、旅行先の観光情報提供
- ・バスの待ち時間も利用した、旅行者への図書の貸出サービス
- ・バスターミナルやバスの車内などの返却ボックスの設置等（図書館機能のはみ出し、ゲートウェイ）

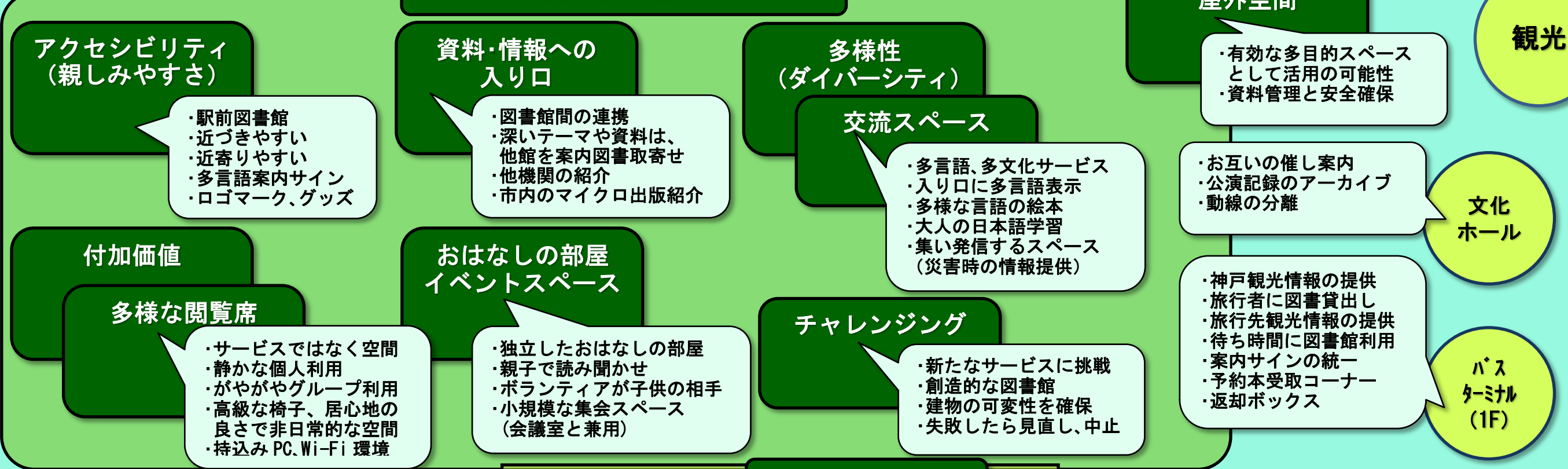
(10) 最後に

- ・規模が広くなくても屋外庭園や様々な共用部を有効利用して施設全体として運用し、情報提供については図書館がしっかりサポートしてほしい
- ・上品な大人の空間であってもいいが、子供も含め色々な人が使うことを踏まえたゾーニングをして、使う場所を分けるなど、誰もが来やすいということを大切にしてほしい
- ・「美しい」という言葉をコンセプトに入れることで敷居が高くなる。もっと入りやすい雰囲気のほうがよいのではないか
- ・事業者の提案ではナレッジキャピタルのようなイメージだが、だからこそ図書館は誰でもが利用できる場所であることを強調したい。色々な人がアクセスしていて社会の課題も見えるパブリックスペースである
- ・住民のことを忘れないでもらいたい。今まで利用していた人が行きにくくなったということは避けたい
- ・ミニラジオ局は多文化のコミュニティツールとしても有効。機能として置いておけば使い方のアイデアは後から出てくる
- ・神戸から芽生える情報発信や出版業の種を応援する機能があればいい
- ・検討会の内容は、事業提案者にもしっかり伝えてほしい

都心三宮



新三宮図書館



つながる

